

1 令和7年度埼玉県学力・学習状況調査の結果

「埼玉県学力・学習状況調査」とは

- ・学力の伸び（経年変化）などを、継続して把握することのできる調査。
- ・小学校第4学年から中学校第3学年まで、同一の児童生徒を継続して調査し、学力の伸びを把握することができる。

(1) 学力を伸ばした生徒の割合（％）

		R07 国語	R07 数学	R07 英語	R06 国語	R06 数学	R06 英語		
1年	本校	87.1	66.7	\	59.0	52.5	\		
	県平均	83.1	66.5		54.6	51.1			
2年	本校	63.5	84.7		50.3	66.0			
	県平均	64.5	84.6		52.9	73.1			
3年	本校	71.7	72.5		81.2	74.8		60.1	74.3
	県平均	74.5	63.8		81.8	66.7		48.1	73.9

(2) 質問紙調査の結果

02「規律ある態度」達成目標 参照

2 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

「全国学力・学習状況調査」とは

- ・義務教育の機会均等とその水準維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教科施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するために実施。
- ・調査対象は、小学校第6学年及び中学校第3学年。

(1) 平均正答率（％）

	R07 国語	R07 数学	R07 英語	R06 国語	R06 数学	R06 英語
本校	51	45	\	55	51	\
埼玉県（公立）	55	50		59	53	
全国（公立）	54.3	48.3		58.1	52.5	

(2) 質問紙調査

03 全国学調生徒質問紙 参照

3 学力・学習状況調査の分析

県学調の結果より、特に学力の伸びた学年・教科は、2年生数学（84.7％）であった。また、県や市内平均と比較して一番伸びた教科は3年生数学（72.5％）であった。

数学科では、一人で考えを整理したり、問題解決をしたりする時間や、さらなる疑問や課題に仲間と協力して取り組める時間を意図的に設定している。また、日常生活との結びつきを伝えたり考えたりする活動を導入し、習得した知識・技能を活用する学習機会が多くなるように単元設計している。これが深い学びにつながり、学力の伸びに影響したと推察する。

4 結果の分析を踏まえた本校学力向上の取組

04 学力向上プラン参照